

11 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況

『多くなったと感じる』が6割を超える

問46 およそ5年前に比べて、あなたの住んでいる地域における犯罪の発生状況についてどう感じますか。(は1つ)

<図表11 - 1> 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況



5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況を聞いたところ、「非常に多くなったと感じる」(15.7%)と最も多い「多くなったと感じる」(46.4%)を合わせると、『多くなったと感じる』(62.1%)は6割を超える。他方で、「変わらない」(22.0%)が2割を超えるものの、「少なくなったと感じる」(1.8%)と「非常に少なくなったと感じる」(0.3%)を合わせた『少なくなったと感じる』(2.1%)は低い。(図表11 - 1)

〔参考〕平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n	『多くなったと感じる』	『少なくなったと感じる』
全体			
平成13年度調査	1,468	60.7	1.7
今回調査	1,467	62.1	2.1

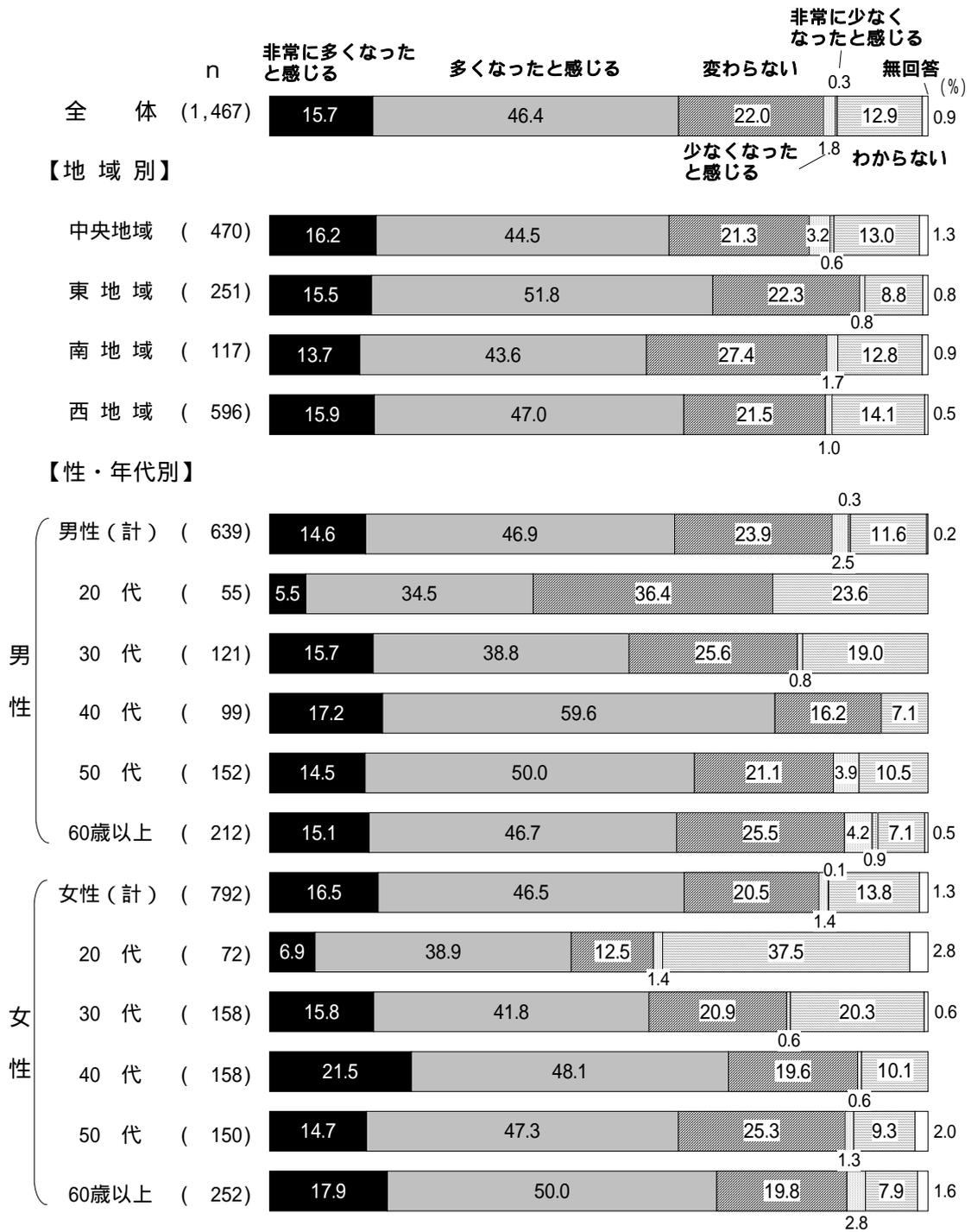
【地域別】

「非常に多くなったと感じる」は地域による大きな違いはみられないが、「多くなったと感じる」を含めた『多くなったと感じる』としてみると、“東地域”(67.3%)が約7割で最も高くなっており、“南地域”(57.3%)が最も低い。一方で、「変わらない」は“南地域”(27.4%)で約3割となっており、最も高い。(図表11 - 2)

【性・年代別】

『多くなったと感じる』は、男性の40代(76.8%)で7割台半ば、女性の40代(69.6%)と60歳以上(67.9%)で約7割と高くなっている。低いのは男女の20代で4割台となっている。なお、「変わらない」は、男性の20代(36.4%)で最も高く、最も低いのは女性の20代(12.5%)となっている。(図表11 - 2)

<図表11 - 2> 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況 / 地域別、性・年代別

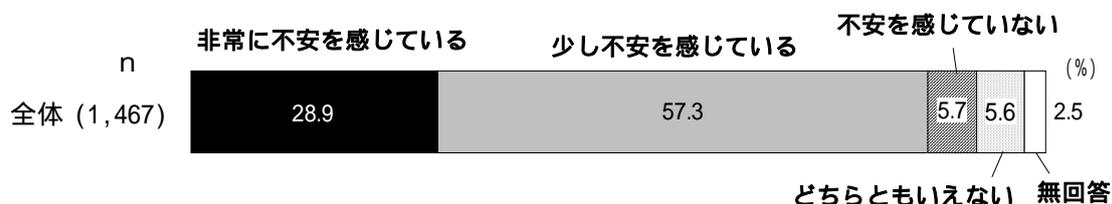


(2) 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度

『不安を感じている』は8割台半ば

問47 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が犯罪に巻き込まれる危険性について、どの程度不安を感じていますか。(は1つ)

<図表11-3> 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度



犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度を聞いたところ、「非常に不安を感じている」(28.9%)が約3割で、最も多い「少し不安を感じている」(57.3%)を合わせると、『不安を感じている』(86.2%)は8割台半ばとなっている。一方、「不安を感じていない」(5.7%)は低い。(図表11-3)

〔参考〕平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『不安を感じている』	「不安を感じていない」
平成13年度調査	1,468	85.0	10.3
今回調査	1,467	86.2	5.7

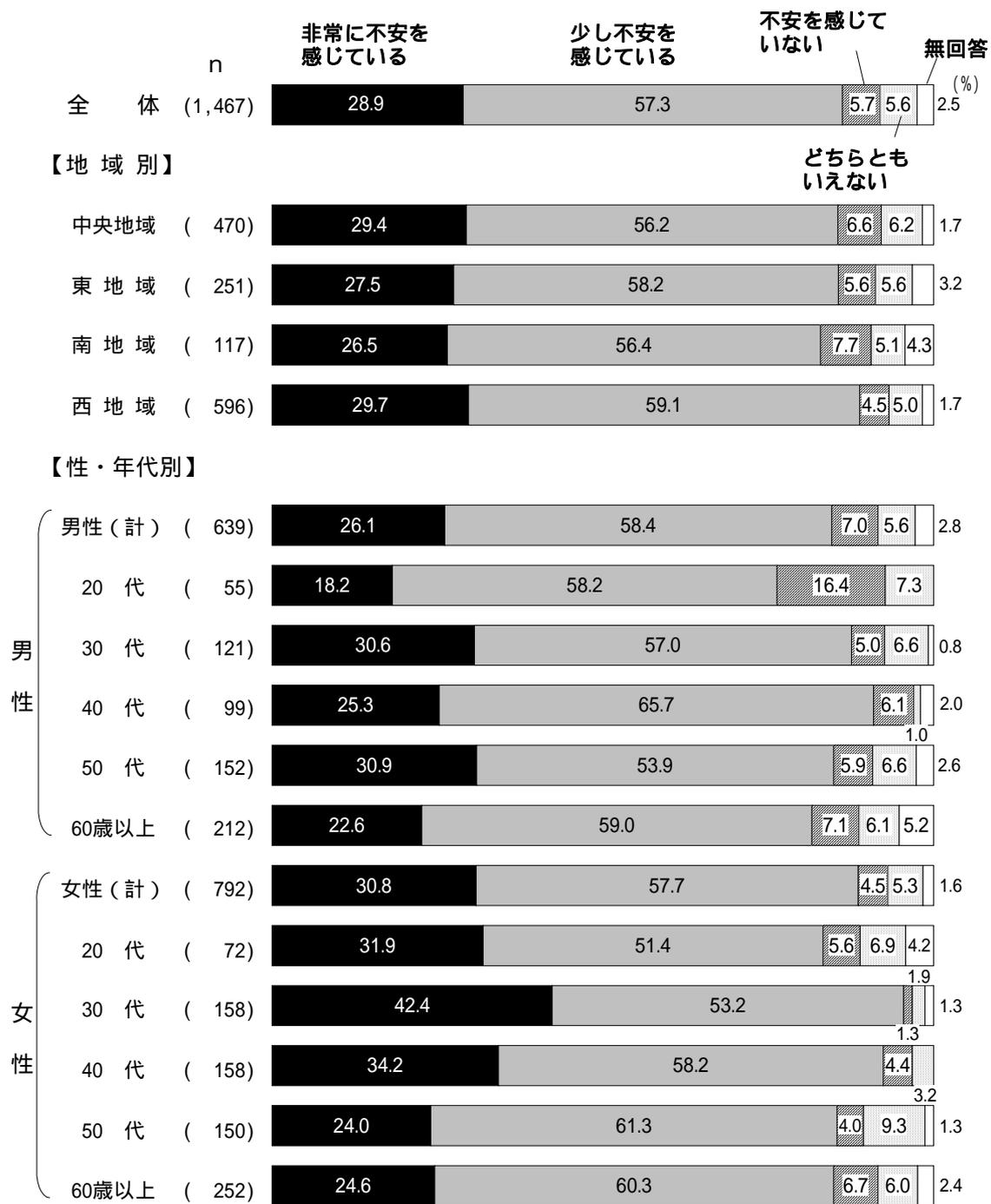
【地域別】

『不安を感じている』は“西地域”(88.8%)で約9割と最も高くなっている。最も低いのは“南地域”(82.9%)である。(図表11-4)

【性・年代別】

「非常に不安を感じている」は、女性の30代(42.4%)で4割を超え高くなっている。「少し不安を感じている」を含めた『不安を感じている』としてみると、男性の40代(91.0%)、女性の30~40代で9割を超えている。最も低いのは男性の20代(76.4%)である。(図表11-4)

<図表11 - 4 > 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度 / 地域別、性・年代別



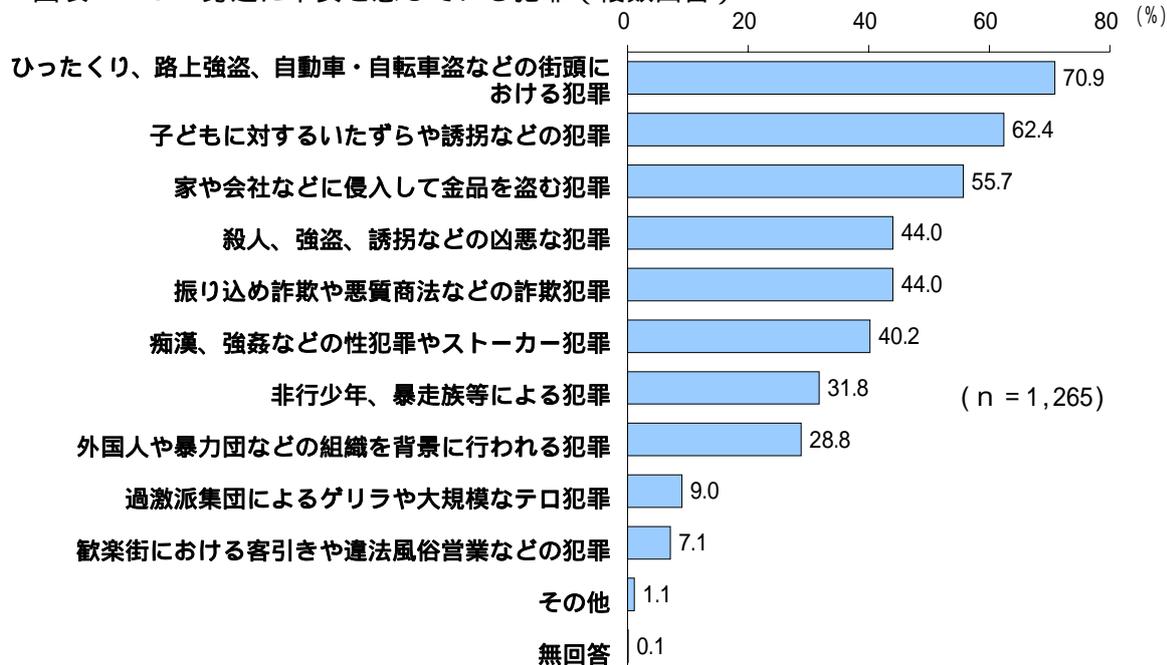
(2 - 1) 身近に不安を感じている犯罪

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」が7割

(問47で「1」か「2」とお答えの方に)

問47 - 1 あなたが身近で不安を感じている犯罪は何ですか。(はいくつでも)

<図表11 - 5> 身近に不安を感じている犯罪 (複数回答)



問47で「非常に不安を感じている」か「少し不安を感じている」と回答した1,265人を対象に、身近に不安を感じている犯罪をいくつでも選んでもらったところ、「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」(70.9%)が7割で最も高くなっている。次いで、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(62.4%)が6割を超え、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(55.7%)が5割台半ばとなっている。(図表11 - 5)

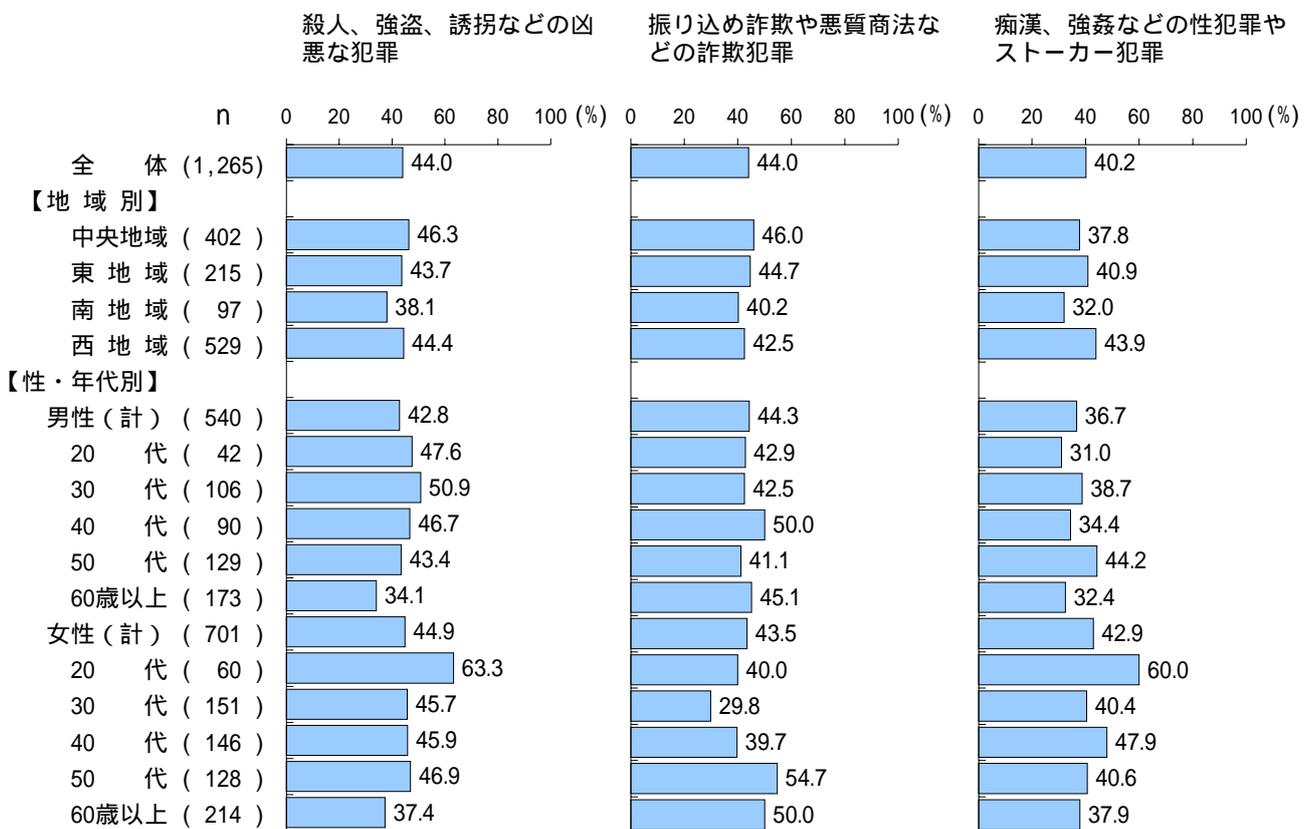
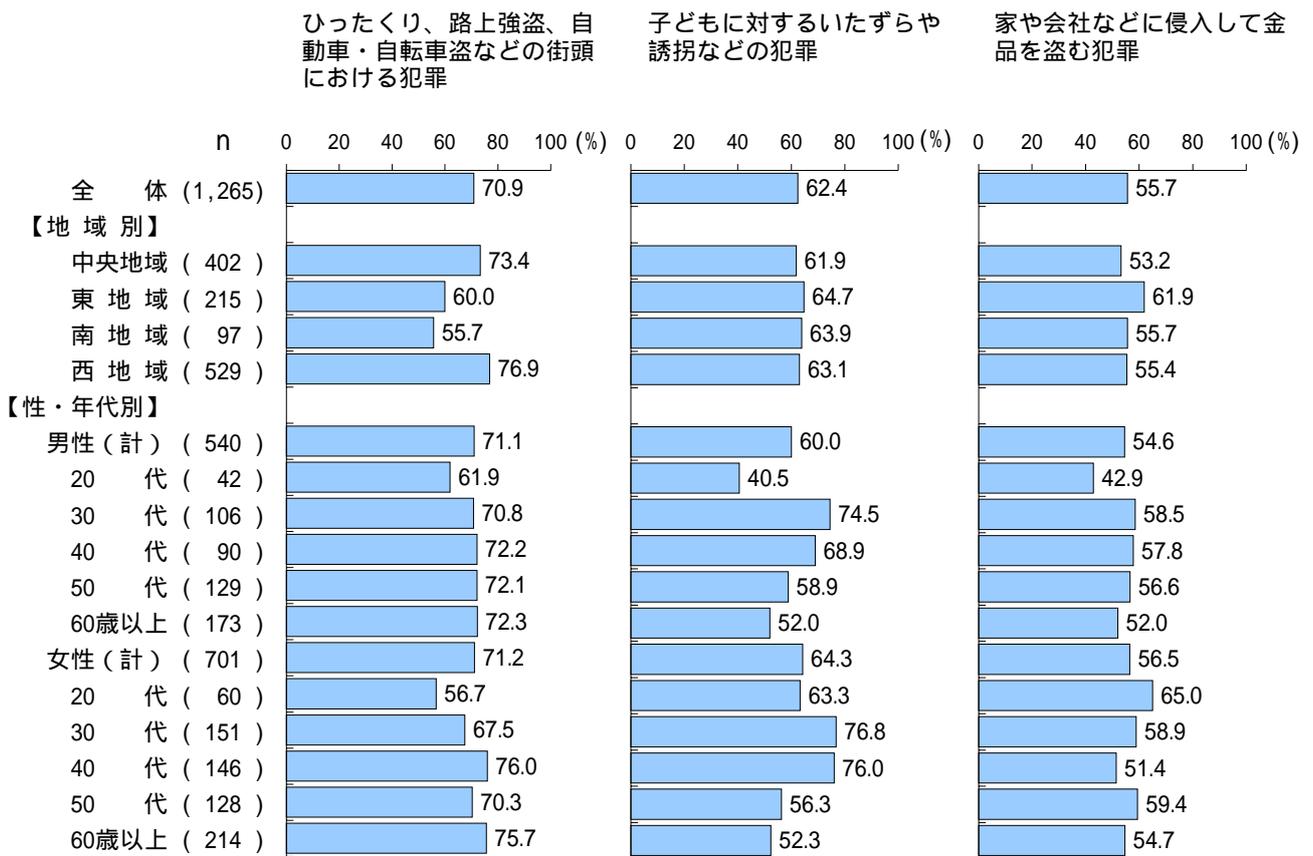
【地域別】

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」は、“西地域”(76.9%)と“中央地域”(73.4%)で7割台半ばとなっており、“南地域”(55.7%)が最も低い。「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は地域による大きな違いはみられない。「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は、“東地域”(61.9%)で6割を超えて最も高い。(図表11 - 6)

【性・年代別】

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」は20代を除き他の年代はおおむね7割を上回っている。「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は、男性の30代(74.5%)、女性の30~40代で7割台半ばとなっているが、他は年代により差が大きい。「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は、女性の20代(65.0%)が最も高く、他の年代はおおむね5割台となっている。(図表11 - 6)

<図表11 - 6 > 身近に不安を感じている犯罪 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

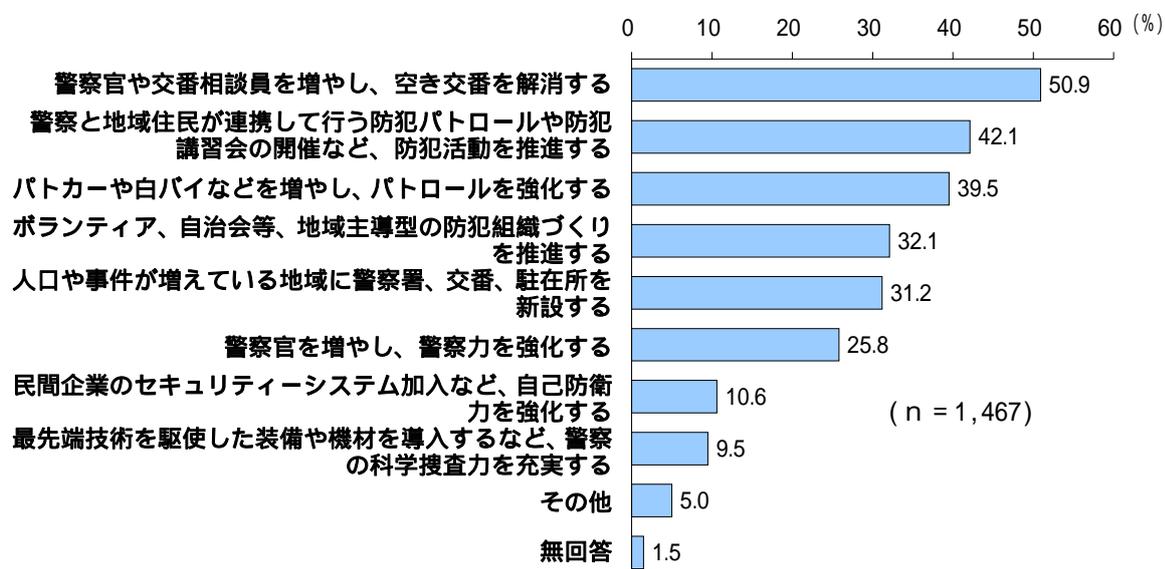


(3) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」が5割

問48 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が重要だと思いますか。(は3つまで)

<図表11 - 7> 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと(複数回答)



安全で安心できる生活を守っていくために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」(50.9%)が5割で最も高く、次いで、「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」(42.1%)、「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」(39.5%)となっている。(図表11 - 7)

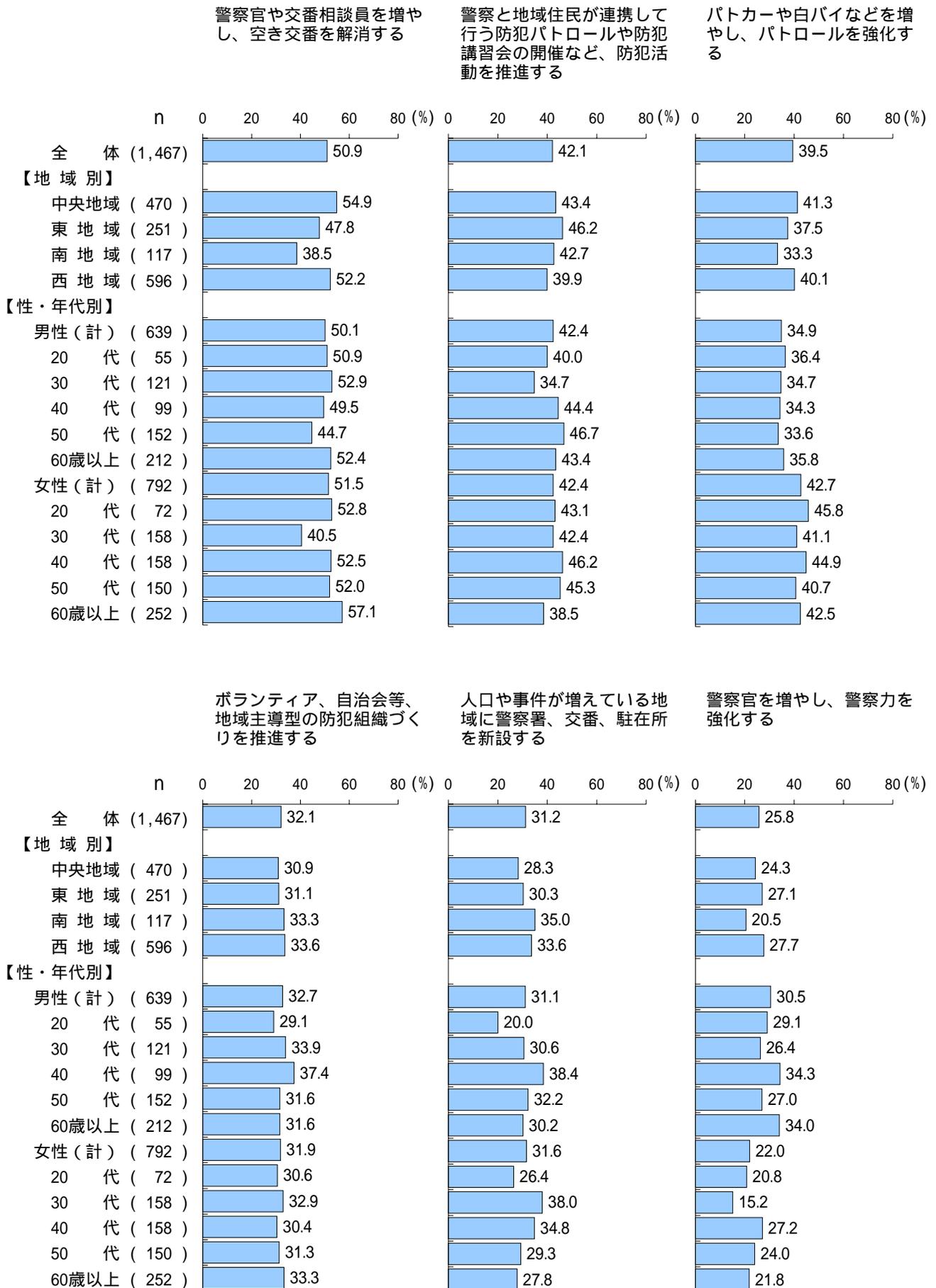
【地域別】

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」は、「中央地域」(54.9%)と「西地域」(52.2%)で5割を超え、「南地域」(38.5%)が最も低い。「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」は、「東地域」(46.2%)が最も高く、「西地域」(39.9%)が最も低い。「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」は「中央地域」(41.3%)、「西地域」(40.1%)で4割を超え、「南地域」(33.3%)が最も低い。(図表11 - 8)

【性・年代別】

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」は、女性の60歳以上(57.1%)が約6割で最も高く、男性の40代(49.5%)、50代(44.7%)、女性の30代(40.5%)を除く他の年代は5割台となっている。「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」は、男女ともに40~50代で4割台半ばと高くなっているが、男性の30代(34.7%)、女性の60歳以上(38.5%)を除く他の年代も4割台となっている。「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」は女性が各年代とも4割を超えているが、男性は各年代とも3割を超えている。(図表11 - 8)

<図表11 - 8 > 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

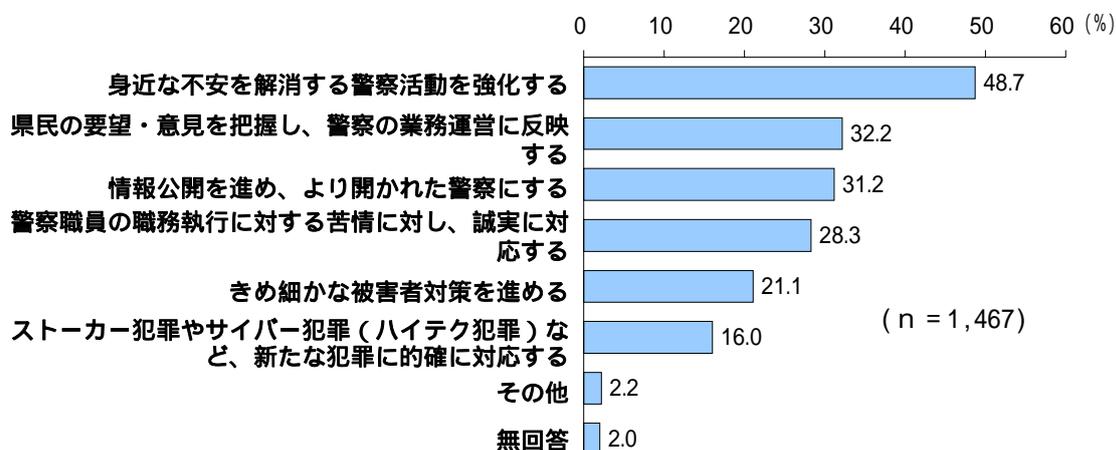


(4) 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」が約5割

問49 あなたは、千葉県警が県民の視点に立った活動を推進するために取り組んでいる施策について、特に必要であると思うものは何ですか。(は2つまで)

<図表11-9> 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策(複数回答)



県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策を2つまで選んでもらったところ、「身近な不安を解消する警察活動を強化する」(48.7%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」(32.2%)、「情報公開を進め、より開かれた警察にする」(31.2%)、「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」(28.3%)となっている。(図表11-9)

[参考] 平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

	n 全体	第1位	第2位	第3位
平成13年度調査	1,468	身近な不安を解消する警察活動を強化する (44.9)	県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する (40.0)	情報公開を進め、より開かれた警察にする (32.4)
今回調査	1,467	身近な不安を解消する警察活動を強化する (48.7)	県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する (32.2)	情報公開を進め、より開かれた警察にする (31.2)

【地域別】

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」は、“東地域”(53.8%)で5割台半ばと最も高く、“南地域”(46.2%)が最も低い。「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」と「情報公開を進め、より開かれた警察にする」は、“南地域”(35.9%)が3割台半ばで最も高い。「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」は、“西地域”(29.0%)が最も高く、“南地域”(23.9%)が最も低い。(図表11 - 10)

【性・年代別】

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」は、男女ともに20代、30代が多少低いものの40歳以上は5割前後である。「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」は男性の40～50代で約4割と高く、男女ともに他の年代は3割前後である。「情報公開を進め、より開かれた警察にする」は、男性の60歳以上(39.2%)が約4割で最も高く、女性の20代(22.2%)を除く他の年代は3割前後となっている。また、「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」は、男性の20代(38.2%)が約4割で最も高く、男性の50代(23.7%)、女性の60歳以上(24.6%)を除く他の年代は3割前後となっている。(図表11 - 10)

<図表11 - 10> 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策 / 地域別、性・年代別

